

1月7日パリで発生した雑誌社に対する襲撃事件について

1月7日、11時半頃(現地時間)、パリ11区で左派系雑誌社「シャリー・エブド(Charlie Hebdo)」をカラシニコフ銃等で武装した2人組が襲撃し、少なくとも警察官2名を含む12名が死亡、6人が負傷しました。1月8日現在も犯人は逃走中です。

雑誌社はパリ中心部ではなく11区のオフィスと住宅街にあり観光客が訪れる場所ではありません。また、逃走に利用された車はパリ北部で発見され、更に他の車に乗り換え、北部郊外へ逃走したのとして捜索されている模様です。

この雑誌社が発行する雑誌は、過去にイスラム教の預言者ムハンマドを誹謗中傷する題材の風刺画を繰り返し掲載し、イスラム教徒の激しい批判や抗議行動を何度も受けており、

2011年に事務所に火炎瓶を投げ付けられて建物内部が炎上する事件も起きていました。

犯人が現場で「ムハンマドへの侮辱に報復した」と発言しており、イスラム過激組織による雑誌社に対するテロ事件として報道されています。 ※ムハンマド(イスラム教の開祖・軍事指導者)

民間人を対象とした無差別テロではなく、今後観光のお客様が直接被害にあう可能性は無いと考えられますが、最新の情報収集に努め、状況によってはお客様への注意を促してまいります。

また、1月7日現在の現地の状況として……

犯人が逃走中であることから、現在はパリと近郊におけるテロ警戒レベルが最高レベルに引き上げられています。空港や駅、人が集まる場所は警備も大変厳重で、セキュリティーチェックに時間がかかることが予想されますので、時間に余裕を持った行動をお願い致します。

事件発生地区を除く、一般観光地周辺はいたって平穏で、市民や観光客は通常と変わらない様子で、昨日(1月7日)から始まったセールなどで街は賑っています。

新聞各社、教会やモスクの宗教関連施設、公共交通機関やショッピングセンターなどは警戒強化を発表しておりますが、観光施設は通常通りOPENしており、一般観光客に影響を及ぼす状況ではありません。

フランスへ渡航・滞在される方は、観光に対する大きな影響は出ていませんが、

以上の状況を考慮して不測の事態に巻き込まれることのないよう、周囲の状況に注意を払い、

不審な状況を察知したら速やかにその場を離れるなど安全確保に十分注意して下さい。

参考(外務省海外安全ホームページ)

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>